

岩木山「弥生跡地」の利活用を弘前市が弘前大学と共同研究・策定すること  
表記についての懇談・会議の報告とまとめ

2007/10/11

<経過>

10/4、弘前市企画課福田氏より竹浪(弥生ネット事務局)に電話があった。それによると弘前市は弘前大学と共同で弥生の跡地の利活用計画を策定することにしており、山下さんにそれをお願いしている。そうしたところ山下さんが、弥生問題に当初から取り組んでこられた岩木山を考える会の考え方を伺いたいとの意向を示しているので、弥生ネットの事務局である竹浪に連絡を取ってみた、とのことであった。

早速竹浪が岩木山を考える会事務局長の三浦氏に連絡を取り、その経過と意向を伝えたところ、会うことについて了解が得られた。竹浪はその意向を市側に伝え、調整をした結果、11日に三浦宅を山下氏と学生あわせて4名が訪問することとなった。

10/11 15時30分弥生跡地問題で三浦宅来訪

来訪者：弘前大学山下祐介准教授（人文学部公共政策講座、社会学研究室）、学生3名

対応者：阿部東(岩木山を考える会会長)、三浦章男（同会事務局長）、竹浪純（弥生ネット事務局）

資料：

- ・ 弘前市が弥生スキー場建設跡地に計画している…「岩木山弥生地区自然体験型拠点施設」の概要とその問題点
- ・ 岩木山弥生地区自然体験型拠点施設建設予定地見学と自然観察の集いについて
- ・ 弘前市会議員に「弥生跡地」観察会参加を呼びかける
- ・ 弥生地区自然体験型拠点施設予定地跡地観察会の報告
- ・ 「弥生跡地」の活用法を考える住民集会のまとめ
- ・ 「弥生跡地」に関連しての東奥日報「明鏡」投稿
- ・ 金澤市政の終焉と相馬市長誕生
- ・ 弥生スキー場予定地跡地（岩木山弥生地区自然体験型拠点施設）建設予定地）今後どうするか、本会の意向
- ・ 岩木山弥生地区自然体験型拠点施設建設に新規の環境評価の実施を求める
- ・ 弥生ネット主催 講演会・パネルディスカッション『弘前市がすすめる「岩木山自然体験型拠点施設建設」を考える』について
- ・ 岩木山弥生地区自然体験型拠点施設整備事業中止後の跡地利用に関する提言
- ・ 弥生跡地、弘前市が弘前大学と共同研究することについて

…など以上30ページ（岩木山を考える会提供）

<懇談>

互いに自己紹介をした後、山下氏が、この問題を引き受けるにいたった経緯と、自分たちがこれまで行ってきた調査の概略を説明した。

その上で、岩木山を考える会が弥生問題についてどのような見解を持っているかを質問

した。

阿部会長は、岩木山を考える会の弥生問題での歴史的取り組みを説明した。その中で基本的な考え方として、「岩木山が孤峰として自然の多様性を維持するには狭すぎること」「岩木山の裾が全部農地になってしまって、岩木山が孤立化してしまっていること」。それゆえ、少しでも現在残されている自然を残しておきたいという考え方があることを説明した。

当然「施設や箱物には反対することになる。」

そしてこれまで「14回シンポジウムを開いて、十分考え方を主張してきた。」

自然保護に関する最新の知見を見ても、「自然保護に一番重要なのは、今のところ、凍結、維持、保全管理である。修復に関してはちょっと自信がない、というのが現状である。」

これに関しては、「自然科学者と人文系の学者の考え方がぶつかっており、保全に関しても知恵をもっと絞らなければならない時期である。」

阿部氏は「岩木山の多様性をどうしたら護るかということが重要であり、そのことが必ず市民に恩恵として将来跳ね返ってくることになるだろう。」と結んだ。

次に三浦氏が、準備した資料に基づき、具体的な考え方を示した。

「岩木山を考える会の基本姿勢は、弥生跡地を『ふるさとの森』として再生すること。」そして、具体的に「自然教育園」を提案していることを伝えた。

その上で、「弘大の果たす役割は大きい」こと。「気をつけなければならないことは、学者が専門家然としてはいけない」こと。「様々な人を集めて意見を聞くことが大事」であること、などの意見を述べた。

弥生問題で、過去に行政と弘前リゾート(株)が実施し、弘大が加担した開発を正当化するためのアセスメント問題について、阿部氏が詳しく告発した。そして、今回弥生の利活用方針を策定するに当たって、是非実施してほしいこととして、「もう一度きちんとアセスメントをし、自然の現状を生物、地質も含めてきちんと行うべき」である、と主張した。

そして、これらの考え方をまとめたものとして「提言」文を市に提出していることを述べた。

山下氏からは弥生問題ではいろいろなグループがあり、よくわからない旨の質問があった。

これについては、弥生ネットの性格を説明し、団体の特徴を生かしながらネットワークを組み活動してきたことを伝えた。

山下氏からはさらに、岩木山を考える会が「エコセンター」の設置を提案していることと、弘前市が弥生に「自然学習館」を建設しようとしたことは同じような内容ではないのか、との疑問が出され、なぜそれに反対をしたのかとの質問があった。

これについては「昆虫広場と称して周りの木を切ってしまう、そういう考え方は自然保護に名を借りた開発に過ぎない。」と説明をし、理解を得てもらった。

岩木山を考える会からは「財政難の中で何が出来るか」が大事であることを、これまで

市が整備をし、その後放置されてしまった例を大石神社附近の「弘前市野営場」を例にとり説明した。

さらに会が岩木町、県と協議を進める中で、環境省の援助を引き出しながら嶽に計画した「岩木山散歩館」の建設と運営に、さらに湯段地区の「ミズバショウ沼公園」の運営・整備などにも協力していることを知らせ、会が単なる反対のための団体ではなく、岩木山の自然を守りつつ地域住民との共生を図るために力を尽くしている団体であることを伝えた。

これに関連し山下氏からは、岩木山を考える会の地元の方々との関わりについても質問があった。

これについては、弘前市は地元の方々には言葉としては耳障りのいい話をするが、実際の計画がそうした地域の期待に応えることが出来る計画だったのかということになると、まったくそういうものではなかったこと。そのことが地域の住民にはきちんと伝えられていなかったことを告発した。

その上で、会員にも何人か船沢の方がいること、弥生ネットが実施したシンポジウムには、市をはじめとして推進する側も招き、率直な意見交換をすることを試みたが、推進する立場の方は一人しか参加していただけなかったこと、その方が発言の中で、「進めようとする側が来ていない残念だ」と述べていたこと。我々もこうした市の対応を残念に思っていること、「地域の方々の協力がなければ岩木山の自然は守れないこと」は自明であり、地元の方々とはじっくり話し合える機会を真に望んでいることを伝えた。

山下氏からは、今後の進め方として、弥生跡地の利活用に関して、当面、何回か学習会を進めて問題点を整理し、その後懇談会を立ち上げる予定である旨の説明があった。そして学習会のメンバーについて、一覧を示し、率直な意見を伺いたいとした。

阿部氏、三浦氏からは、「観光中心の考え方、イベント、もうけ中心の発想の方は出来るだけ避けた方がいいのではないだろうか」との指摘があった。

山下氏からは、懇談会は「いろいろな意見がきちんとあがるように、構成を考えたい。岩木山を考える会の提案は、今後の問題を考えるにあたっての土台の一つになると思うので、是非、構成に入ってほしい。いろいろな意見を総合しながら、市企画課としても、そうしたいと考えていると思うので、今後、協力していただければありがたい。」との要請があった。

これに対しては山下氏の要請を受け入れる旨の返答をすると共に、弥生ネットには財政など別な角度からこの問題にかかわってきている団体もあるので、そうした団体も懇談会に加えてほしいとの要請をした。

最後に岩木山を考える会から「目先にこだわらずに長い目でやっていくにはどんなことが出来るのかという視点でやらないとだめだと思う。そのためにも現状分析をきちんとやっていただきたい。」との提起を再度行った。

そして今後の連絡は、必要に応じて、竹浪、三浦が窓口になり弘大山下氏、弘前市と調整を行うことにして2時間あまりに渡った懇談を終了した。 以上（文責 竹浪）